2年学年だより

発行日：令和5年 10 月 31 日（火）
発行者：横浜市立南高等学校附属中学校
学校長：遠藤　広樹　NO. 6

パラアスリート秦由香子選手の講演会

校長代理　　中澤　務

10月17日（火）7校時、パラアスリート、トライアスロンの秦由香子選手が南高附属中に来校し、講演をしてくださいました。秦選手は講師紹介の後、むき出しの義足で登壇されました。骨肉腫を発症して、中学1年生の時に右脚の膝から下を失った秦選手。「中高6年間は体育の授業に一切参加することがなかった。なんで自分だけこんな目に遭わないといけないのかと思っていた。」「パラトライアスロン選手のかっこいい姿にあこがれた。トライアスロンをなぜやっているのと聞かれても、自分はこれを好きでやっているのだ、と答えている。」秦選手は来年のパラリンピック・パリ大会への出場と、東京パラリンピックパラトライアスロン6位以上の結果を出すことができるよう準備を続けています。

「障害をもった人と出会ったとき、わたしたちはどんな態度をとったらよいか」との質問を受け、義足をつけている自分を見かけたとき、日本では、こちらを見ないようにする人が多い、子どもが近寄ってくるようなことがあっても、親がそれを止めてしまうこともある。海外では、義足に興味をもって話しかけてくる人がいる、というようなお話もありました。

南高附属中の生徒が一堂に会する機会って実はそんなに多くはないんですね。今回、体育科の先生を中心にして中学校全校での講演会を企画することができました。また、講演会の様子はテレビ神奈川、タウンニュースに取り上げていただくことができました。（タウンニュース港南区・栄区版 10 月 26 日号）

「7校時目に講演を聞いて疲れたでしょう、みんな真剣に聞いてくれて嬉しい。」と秦選手はおっしゃっていましたね。講演を真剣に聞いてくれたこと、積極的にいろんな質問をしてくれたこと、そして講演翌日の振り返りで、秦選手に心のこもったメッセージを書いてくれたことで、南高附属中生徒の皆さんが、秦選手の心を動かしていることは間違いないと思いますし、そんな皆さんを誇らしくも思います。

講演の後、改めて中学生に伝えたいことを尋ねると、「お互いに目標に向かってがんばっていこうというメッセージを伝えることができた。自分の行動は自分で決める、自分が好きでやるんだ、という思いをもって取り組んでほしい。」とおっしゃっていました。自分で決めることができる人を育てます、と私から秦選手に伝えました。

イングリッシュキャンプ in 新潟

9/27(水)～9/29(金)の2泊3日でイングリッシュキャンプに行ってきました。初日は、普段とは異なる環境に緊張している様子も見られました。しかし、インストラクターさんとコミュニケーションを取る中で少しずつ慣れ、最終日には全員が楽しんで英語でコミュニケーションを取る様子が見られました。

中学校生活初めての宿泊行事で学んだことも多くあったと思います。この経験を今後の学校生活や学校行事に活かしましょう。以下、一部の活動の様子を掲載します。

【カヤック】 英語での指示を聞き、とても頑張っていました。また、自然に触れることもできました。

【タイダイ染め】 シャツをねじり、輪ゴムで結び、好きな色で染めました。素敵なシャツに仕上がりました。

【ガガ】 ドッジボールとサッカーを組み合わせたようなスポーツで体を動かしました。

LGBTQ 講話

10/21(土)に鈴木信平さんよりお話をしていただきました。みんながお互いを尊重し、理解し合えるようになることが大切だというお話もしていただきました。以下、講話を聞いての感想を一部掲載します。

【鈴木信平さんの紹介】

毎年本校で講話をしていただいています。
2017 年に、「男であれず、女になれない」という本を出版されています。

・男女で分ける世の中ではなく、その人自身の“らしさ”で見れる世の中を
・最近の EGG でパラアスリートの方が来てくれた時の話で、子供が「何あれ?」と言ったことに対し、大人が「やめなさい」と言っていたことは逆に傷つくとおっしゃっていた。今回の話にもこれは当てはまるような気がして、LGBTQ の人たちに、知りたくて話しかけようとしたときに失礼でしょと言ったりするのは逆に失礼なのではと思った。
・多くの人が「女は女らしく」「男は男らしく」が当たり前とされる環境の中で生きてきたために、そうでない人は特別だという偏見や固定概念が生まれているから解決しないのだと思いました。少しずつ偏見をなくし、いつか誰もが快適な世の中になるといいなと思います。
・どんな違うも認められる器を作るために今は土台を作っていきたい。
・「みんな違っている。それだけが同じ」という言葉がとても心に残った。みんながこうしているから、女の子だから、男の子だから、という考えにとらわれず“自分らしく”生きていけるのが1番大切だと思った。
・今回感じたことをとどめておかず、実生活にどんどん生かすことが本当に社会がよりよくなっていく一つの手段だと思うのでどんどん生かしていきたい。
・LGBTQの人だけではなく、全ての人に勝手な価値観で決めつけて話さないようにしたいです。
・今回の講演を通して、自分自身についてよく考える時間をもうけたいと思いました。
・どうしたら LGBTQ がもっと社会で暮らしやすくなるかを、家でじっくり考えてみようと思いました。
左利きや AB 型ぐらい LGBTQ は身近であり、その分とても社会を生きるうえで大事だとわかりました。

みちをのぼやき　「道を決めた人に、道がひらける」
　１０月はパラアスリートの方の講演や「人として生きる」をテーマとした講演など、外部講師の方のお話を聞かせていただく機会がたくさんありましたね。講演を聞いて、二人の講師の方から「こうやって生きる」とか「これで生きる」といった力強さを私は感じました。他の人では想像することが容易ではない経験、(苦しいことも楽しいことも)本当に多くの経験を経て出した自身にとっての答えを堂々と話している姿から、心の奥にある揺るがない軸、覚悟といったものが感じられカッコ良く見えました。これは私が感じたことです。みなさんはどんなことを考え、どんなことを感じましたか。